

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称	博士 (医 学)	氏 名	植 田 佑 樹
審査担当者	主査	教授	寶 金 清 博
	副査	教授	佐々木 秀 直
	副査	教授	生 駒 一 憲
	副査	教授	有 賀 正

学 位 論 文 題 名

てんかんの原因となる限局性皮質形成異常の同定を目的とした脳磁図の波形形態解析

申請者は症候性局在関連てんかんの主たる病因である限局性皮質形成異常 (focal cortical dysplasia: FCD) を伴うてんかん症例の脳磁図 (magnetoencephalography: MEG) において、急峻で持続時間が短い特徴的なMEG棘波が発現することに着目し、FCDを波形の形態解析から診断できるかどうかを検討した。FCDの病変自体が強力なてんかん原性を持つ特徴を波形形態が現していることが示唆された。

この研究結果に関して、佐々木教授より、MEG棘波の陰性、陽性の意義について、FCDのMRI所見について、また外科手術における皮質電位測定について質問があった。生駒教授より、棘波以外に捉えられる所見について、MEGにおける棘波の定義について質問があった。またFCDを伴う症例の頻度と、測定時の薬剤使用の影響について質問があった。有賀教授より、波形のベクトルについて質問があった。FCDの波形の特徴は脳表にあることと病理的特異性とどちらに由来するのかと質問があった。また、MRIで病変のない症例の病理所見について質問があった。寶金教授より、トラクトグラフィー、functional-MRIを用いた研究についてと、MEGの感度について質問があった。またMRIで病変のないてんかん外科治療の位置づけについてと、薬剤に反応性を示す症例のMEG棘波の変化について質問があった。申請者は全ての質問に対し、自身の研究結果や過去の文献引用などから、概ね適切に回答した。

本研究はMEGの波形形態解析がFCDのようなてんかん原性部位の同定に役立つことを示した点で高く評価され、今後のてんかん診療における臨床応用が期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士(医学)の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。